

# 平成 29 年度 事業計画書

(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

社会福祉法人 西谷会

はじめに

# 虚往実帰

## ○基本理念

空海は自分の師である恵果和尚が亡くなったとき、墓碑に『恵果和尚は虚往実帰の人でありました。』と書きました。

さみしく、つらく、虚しい心の人が恵果和尚に出会うと、満ち満ちた心で帰ったという意味です。

私たち社会福祉法人西谷会の施設・事業所においでになられた方及び訪問した先にて、西谷会の職員、西谷会の心にふれていただいて、明るく満ち満ちた心になっていただけるような法人でありたいと考えております。

## ○平成 29 年度社会福祉法人西谷会目標

### 事業の経営基盤強化

平成 29 年 4 月より、社会福祉法が改正され、事業運営の透明性向上や財務規律の強化などが求められています。より充実したサービスの提供に向け当法人では、「組織的な経営」への変革が必要であると考えております。

そのためには、自立した組織としてコンプライアンスやリスク管理や業務に関する手続きなど、業務の適切性を確保する内部管理体制の構築が必要と考えております。具体的には、「法人本部機能の確立」「拠点管理業務の確立」であります。

「法人本部機能の確立」については、法人全体をグループ経営の視点でとらえ、現場である事業所・施設や法人本部の階層ごとの役割と責任を明確にすることに努めます。法人本部は業務処理を必要最低限に減少し、法人改革や財務管理、成長戦略策定、採用や人材管理などの課題に対応します。

「拠点の管理業務」では施設長・所長の役職がマネジメントのできる体制をつくり、責任をもって施設・事業所運営ができるように管理職への権限移譲を意識します。同時に業務の標準化を進め、マニュアル作成・見直しなどの仕組みづくり、職員の意識改革に取り組みます。

以上の 2 点を整備することで、組織的な経営を確立することができ、安定した法人運営ができるものと考えております。また、継続的に行うことで法人及び事業所運営の透明性が向上され、より経営基盤の強化につながると考えております。

## 社会福祉法人西谷会 中期事業計画（平成 28 年度～30 年度）

平成 28 年度より 3 か年を期間として、利用者サービスの向上と法人の安定運営を目指し中期事業計画を進めております。

### 1、利用者サービスの向上

- ①専門識としての知識・技術・価値の向上
- ②中期事業計画を理解し、自ら考えて行動する人材の育成

### 2、人事考課の円滑な運営による処遇改善と組織の強化

- ①職種・役割にふさわしい職員給与の分析、改善
- ②人事考課制度による評価制度の分析、改善
- ③中堅職員の育成と新たな組織体制の強化

### 3、経費の適正管理

- ①適正な経費の支出の確認
- ②無理のない光熱費の節減および組み直し

### 4、法令遵守による事業運営の適正化

- ①内部監査体制を整備
- ②規程に則った事業運営の遂行

### 5、事業の継続・発展のための収益成長

- ①サービス活動収益差額目標 130,000 千円以上

社会福祉法人として一人一人が中期事業計画を基に何をすべきかを考え、直面する課題について検討を重ねて、改善・計画・実行することにより新たな価値を生み出すように取り組んでいきます。

# 西谷憩いの家

介護老人保健施設 西谷憩いの家  
短期入所療養介護 西谷憩いの家  
通所リハビリテーション 西谷憩いの家

平成 29 年度、西谷憩いの家は西谷地区の対象高齢者の減少を考え、地域の実情に見合ったサービスの方法を展開していかなければならない。具体的には次世代の職員の育成と地域の介護力・福祉力の向上のため施設内外でいろいろな取り組みを考えて実行していく。介護人材育成強化と非専門職、高齢者、障害者の雇用を推進して行う。

「認知症ケア・在宅復帰支援・ターミナル」の基本方針として進めていく。  
組織としての自覚と成果を意識し、平成 30 年度に考えられる介護報酬改定に向けて平成 29 年度をしっかりと運営していきます。

## (事業・運営計画)

### 1、平成 29 年度の目標数

介護老人保健施設 西谷憩いの家	35,222 名(入所率 96.5%、ショートを含む)
通所リハビリテーション 西谷憩いの家	7,200 名(1 日平均 23.4 人)

### 2、目標数達成のための課題

#### [介護老人保健施設 西谷憩いの家]

#### (ア) 利用者の確保

利用希望者を増やすための手法を考え働きかける。

入所までに利用者に時間がかからないように判定会議を常に行う体制を確立する。

待機者を確実に確保し 1 か月以上のスケジュール管理する。

#### (イ) 地域包括ケアの推進

地域との協定を締結、合同防災訓練実施等、地域防災拠点として強化する。

#### [通所リハビリテーション 西谷憩いの家]

#### (ア) 利用者の確保

西谷地区の利用者増やすための働きかけをする。

業務及びシステムの見直しをする。

#### (イ) サービスの質の向上

相談員機能を強化する。

効率的な職員配置が行えるよう改善を図る。

(目標数)

	老健入所	短期入所	通所リハビリ
利用者定員	100名	空所利用	40名
稼働率	96.5%		58.8%
稼働日数	365日		307日
利用者延べ人数	34,127名	1,095名	7200名
1日平均利用者数	93.5名	3名	23.5名
単価(一人一日当り)	14,219円	15,730円	10,586円
サービス活動収益	485,252千円	17,224千円	76,219千円
合計	578,695千円		

# ケアプランセンター 西谷憩いの家

平成 29 年度は人員体制は 4 人となり、そのうち主任ケアマネージャーが 3 人となり、特定事業所加算が算定できる体制が整っており、さらなる戦略をもって利用者数の確保とサービスの質の向上を目指していきます。

## (事業・運営計画)

### 1、平成 29 年度の目標数

要介護 959 名、要支援 323 名で平成 28 年度のサービス活動収益より 1,000,000 円以上の収益アップが見込める。

### 2、目標達成のための課題

(ア) 居宅支援利用者の 81 歳以上の方が 50%以上を占めており、利用者が介護度 3 以上になると施設入所希望が増える。

他事業所、法人内の訪問看護、短期入所介護、通所療養介護等との連携・活用して、在宅療養できる環境を確保し、在宅生活を維持する。

(イ) 地域的に人口が少なく、健康な高齢者が多く、在宅支援者の新規確保が難しい

市内・猪名川地区に関しては事業所が遠いイメージを持たれることが多いので各地区担当を分けて対応する。

地域ケアシステムを活用して、顔を広げる。(地域ケア会議・個別ケア会議、民生委員・地域住民の集まりや催しに参加する等)

(ウ) 職員の質の向上をさせる。

各事業所に対して、必要に応じてケア・サービスについての提言、指導を行う。

個々に合わせた研修に参加し、質の向上を図る。

居宅会議を通して、各自の支援方法や経過を報告してもらい、必要に応じてコーチングしていく。

(エ) 事業所職員の収益に対する意識を持たせる。

定期的に個々の業務の定期的に見直して残業削減、物品（PC・車等）の管理にて出費を抑える意識を持ってもらう。

## (目標数)

	年間請求件数	単価(円)	サービス活動収益	合計
介護	959 件	16,716 円	16,031 千円	17,290 千円
予防	323 件	3,900 円	1,259 千円	

# 訪問看護ステーション 憩

宝塚市内に多くの訪問看護事業者が参入してきて、利用者獲得に厳しい競争となっています。その中でサービスの向上、事業所としてアピールできる特色を強化していく。精神科・看取り等、スタッフの看護技術や対応を強化していきます。「利用者様家族様が安心して自分らしい在宅療養生活を過ごせるよう支援していく」という事業所の理念に基づいて進めていきます。

(事業・運営計画)

## 1、平成 29 年度の目標数

訪問利用者数 毎月 130 人

訪問件数 介護 7,052 件 医療 3,798 件

## 2、目標数達成のための課題

(ア) 他の訪問看護ステーション参入により利用者獲得の競争率のアップ

サービスの向上 (外部研修の参加、内部勉強会の充実、定例カンファレンスの充実、他事業所、居宅、医療機関との連携強化、利用者様満足度アンケートの実施、マニュアル、医療処置、ケアの標準手順作成)

PR活動 (定期的なPR活動の実施、他職種連携の研修会等の参加、地域内等でのサロンへのPR検討、ホームページの活用)

(イ) 人員確保→競争率は上がりながらも訪問件数に対する対応人員はギリギリである。

求人活動 (看護師 2 人増員するとサービス活動収益が最大 21,000 千円アップする。)

職場環境の整備 (業務改善、何でも相談しやすい環境づくり)

待遇改善 (給与等)

(目標数)

	平均利用者数	年間訪問件数	単価(円)	サービス活動収益	合計
介護	130 人	7,052 件	8,522 円	60,097 千円	96,505 千円
医療		3,798 件	9,586 円	36,408 千円	



## 訪問看護ステーション 憩～川西～

平成 27 年 7 月に開設以来、着実に数字を積み重ねています。平成 29 年度は前年度以上の数字はもちろんですが、職員の確保で更なる収益増加に邁進していきたい。「利用者様家族様が安心して自分らしい在宅療養生活を過ごせるよう支援していく」という事業所の理念に基づいて進めていきます。

(事業・運営計画)

### 1、平成 29 年度の目標数

訪問利用者数 毎月 75 人

訪問件数 介護 3,648 件 医療 912 件

### 2、目標数達成のための課題

(ア) 人員の確保 (看護師、セラピスト) →新規利用者が増え現在のスタッフ人数では対応が難しい。

求人情報内容を見直す

働きやすい環境づくり

(イ) サービスの向上

看護・リハビリの質の向上 (勉強会や研修会への参加等)

「利用者様第一」の精神

(ウ) PR活動

地域に根ざした訪問看護ステーションをアピールする。

近隣病院での勉強会やカンファレンスへの参加

(目標数)

	平均利用者数	年間訪問件数	単価(円)	サービス活動収益	合計
介護	75 人	3,648 件	7,889 円	28,779 千円	37,204 千円
医療		912 件	9,238 円	8,425 千円	

## 憩～江坂～

地域密着型特別養護老人ホーム 憩～江坂～

短期入所生活介護 憩～江坂～

認知症高齢者グループホーム 憩～江坂～

平成 26 年 4 月に開設して 4 年目を迎えます。運営数字としては特養、グループホームの利用者数が安定してきました。ショートステイは職員の関係上利用者数が減少しています。「安心して暮らせる第 2 の家」という施設の方針に従って進めていきます。

(事業・運営計画)

### 1、平成 29 年度の目標数

地域密着型特別養護老人ホーム 憩～江坂～	10,373 名 (稼働率 98%)
短期入所生活介護 憩～江坂～	1,800 名 (稼働率 49.3%)
認知症高齢者グループホーム 憩～江坂～	6,538 名 (稼働率 98%)

### 2、目標数達成のための課題

(ア) 離職者の減少

職員に対して、上司が年 2 回面談する。

(イ) 人材確保

人事担当者が週 2 回事業所 (江坂) に出勤して、吹田地域求人状況の及び施設の人員状況把握をして人材確保のための活動をする。

介護職員の給与を見直し、働きたくなる環境をつくります。

(ウ) 地域活動

地域行事に参加し、事業所をもっと知ってもらうようにアピールしていく。

(目標数)

	特養入所	短期入所	グループホーム
利用者定員	29 名	10 名	18 名
稼働率	98%	49.3%	98%
利用者延べ人数	10,373 名	1,800 名	6538 名
1 日平均利用者数	28.4 名	4.9 名	17.6 名
単価(一人一日当り)	14,182 円	13,938 円	14,705 円
サービス活動収益	147,110 千円	25,088 千円	96,141 千円
合計	268,339 千円		

# 憩～荻野～

地域密着型特別養護老人ホーム 憩～荻野～

短期入所生活介護 憩～荻野～

平成26年11月に開設して平成29年度は4月より寺下施設長が復帰して新体制を迎えます。「その人らしい暮らしをサポートする。」という施設の基本方針に従ってしっかり努めていきます。短期入所生活介護をの稼働率をどこまで伸ばせていけるのか、経費見直しがこの施設の運営上重要になります。

(事業・運営計画)

## 1、平成29年度の目標数

地域密着型特別養護老人ホーム 憩～荻野～	10,373名 (稼働率98%)
短期入所生活介護 憩～荻野～	3,102名 (稼働率85%)

## 2、目標数達成のための課題

[特養]

- (ア) 待機者数の増加を図るための取り組み  
居宅介護支援事業所への定期訪問
- (イ) 空床があったときの新規入所者決定から新規入居までの迅速な手続き  
入居者の決定をスムーズに進めるため、現場の職員が同行する。  
入居選考の対象になった利用者をあらかじめ現場の職員が面談をしておくなどの  
情報収集の工夫を行う。
- (ウ) 退所による空床や入院による置き空床をできる限り少なくするための取り組み  
利用者の状態変化に対応する介護・看護力アップ両者の連携を組織的に身につける。
- (エ) 加算対象項目の見直し  
サービス提供体制強化加算の算定など加算可能な項目を確認し算定する。
- (オ) 経費の見直し  
介護材料費、水道光熱費等無駄がないか見直し改善していく。

[短期入所]

- (ア) 年間を通じて、ロングショート利用者の取り組み  
居宅介護支援事業所への定期訪問
- (イ) リピーターの増加をはかる取組み  
日常的な楽しみを増やす活動を活性化。職員の長所を活かした活動をする。
- (ウ) 加算対象項目の見直し

サービス提供体制強化加算の算定など加算可能な項目を確認し算定する。

(目標数)

	特養入所	短期入所
利用者定員	29名	10名
稼働率	98%	85%
利用者延べ人数	10,373名	3,102名
1日平均利用者数	28.4名	8.5名
単価(一人一日当り)	14,012円	13,163円
サービス活動収益	145,346千円	40,832千円
合計	186,178千円	

# 法人本部

平成 29 年度の社会福祉法改正により社会福祉法人はより内部統制（コンプライアンス、リスク管理等）が求められます。業務を正しく遂行していくために、業務を適正化し組織を統制していきます。具体的には業務ごとに基準やルールを定めていき、評価・改善していきます。

（各部署の事業目標）

## [法務]

- ・ 定款及び規定集の変更手続き及び管理
- ・ 各拠点における契約書、重要事項説明書等の変更手続き及び管理
- ・ コーポレートガバナンス（企業統治）体制の構築
- ・ コンプライアンス（法令遵守）のため内部監査の実施

## [経理]

- ・ 経営分析、キャッシュフローの経営管理の推進
- ・ 経営目線の持った職員の育成
- ・ 経理事務手続きにおける会計・銀行取引の法人本部への一括化
- ・ 社会福祉法人制度改革への対応
- ・ 経費の削減

## [総務]

- ・ 社会福祉法改正等に伴う組織管理体制の構築
- ・ 法人の成長戦略の策定
- ・ 労働法制改正への適切な対応
- ・ リスクマネジメント委員会の設置及びリスク管理方法の策定
- ・ 各拠点と本部の総務業務の連携と内容を検討

## [人事]

- ・ 拠点と法人本部の人事における役割の明確化、情報の共有・伝達
- ・ 継続的に施設及び事業所を支える優秀な人材を確保する仕組みづくり
- ・ 外国人介護人材（E P A 等）の確保・育成スキームの構築。
- ・ 人事制度、規定の見直し
- ・ 常勤換算の確認、人員の確保